

# 2026年3月期 業績概要

杉田 俊一

アンリツ株式会社  
取締役 専務執行役員 CFO

2026年4月27日



本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

# 目次

1. 事業概要
2. 2026年3月期 連結決算概要
3. 2027年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

# 1. 事業概要

## 通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ◆ モバイル市場 : 5G/6G、5G利活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場 : データセンター、光/無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備、研究開発

## PQA事業

食と医薬品の安全・安心



- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場

## 環境計測事業

脱炭素社会を目指して



- ◆ EV/電池市場
- ◆ 社会インフラIT市場

## その他



- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他

### (セグメント別売上比率)

2025年3月期 実績 (連結) : 1,130億円

通信計測 62%			PQA 25%	環境計測 8%	その他 5%
モバイル 43%	ネットワーク・インフラ 39%	エレクトロニクス 18%			

2026年3月期 実績 (連結) : 1,175億円

通信計測 59%			PQA 26%	環境計測 9%	その他 6%
モバイル 38%	ネットワーク・インフラ 39%	エレクトロニクス 23%			

### (通信計測事業 地域別売上比率)

2025年3月期 実績

日本 16%	アジア他 38%	米州 28%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

2026年3月期 実績

日本 17%	アジア他 36%	米州 28%	EMEA 19%
--------	----------	--------	----------

## 2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	1,126	1,246	120	11%
売上高	1,130	1,175	45	4%
営業利益	121	148	27	22%
税引前利益	127	161	34	27%
当期利益	93	117	24	26%
当期包括利益	78	148	70	90%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入 (前年同期比増減額を除く)

## 2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測は減収増益、PQAは増収増益、環境計測は増収減益

(単位：億円)

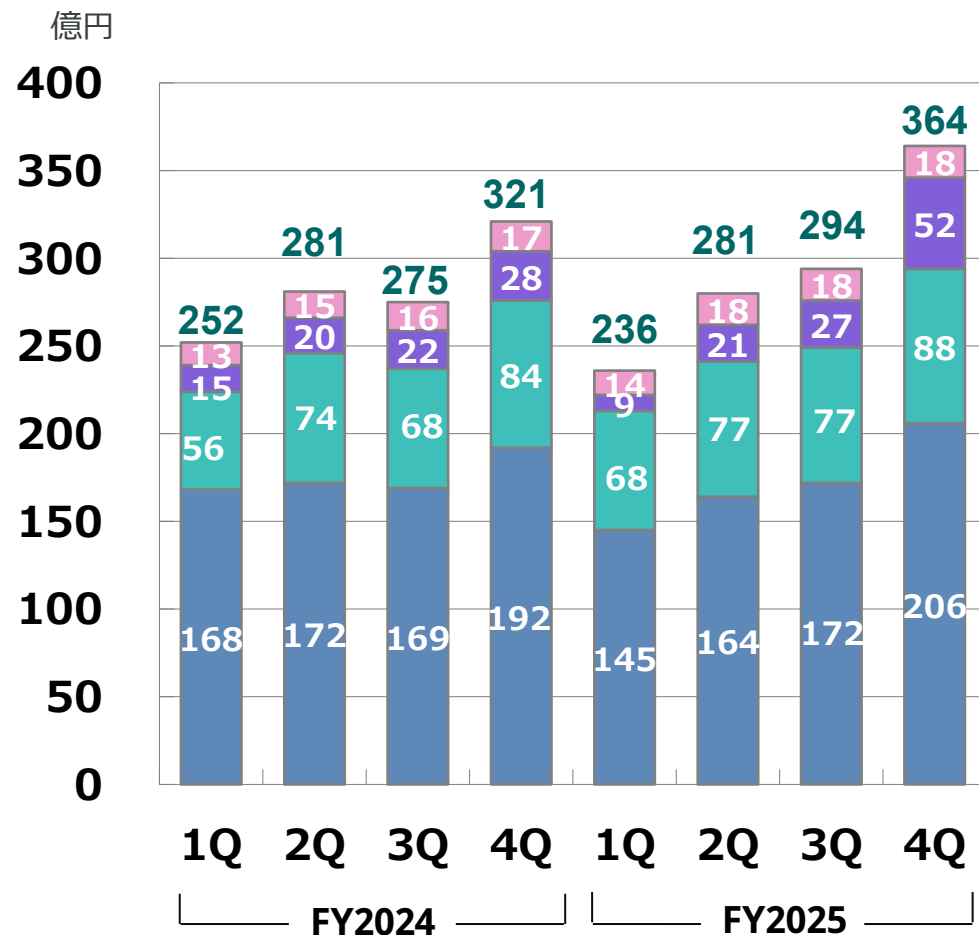
国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	701	688	△ 13	△ 2%
	営業利益	84	108	24	29%
PQA	売上高	282	310	28	10%
	営業利益	28	33	5	17%
環境計測	売上高	85	108	23	26%
	営業利益	9	9	△ 0	△ 5%
その他	売上高	61	69	8	13%
	営業利益	15	20	5	35%
調整額	営業利益	△ 14	△ 21	△ 7	-
合計	売上高	1,130	1,175	45	4%
	営業利益	121	148	27	22%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

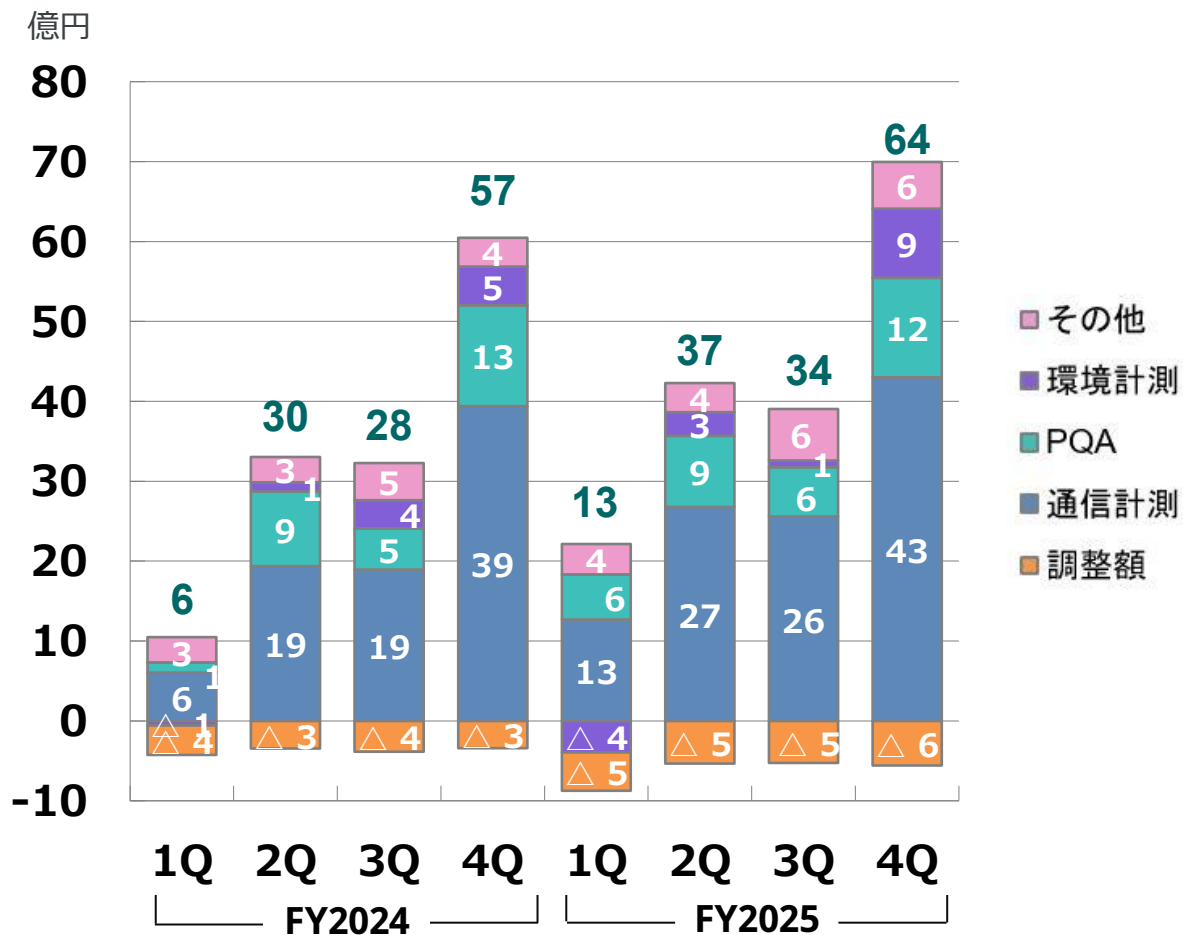
## 2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 4Q(1-3月)営業利益率：通信計測 20.8%、PQA 14.2% 環境計測 16.7%



売上高

(注) 値はそれぞれで四捨五入



営業利益

- その他
- 環境計測
- PQA
- 通信計測
- 調整額

### セグメント 2026年3月期（4-3月）の状況

➡ 通信計測：米国関税政策の影響で延伸していた顧客の投資は回復  
世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、  
投資への慎重姿勢が継続

モバイル	5G開発市場の投資は不安定 5G利活用市場では自動車やNTN、Wi-Fi 7の需要が継続
ネットワークインフラ	生成AI用のデータセンターの構築・高速化が加速 光海底ケーブルの敷設が増加傾向
エレクトロニクス	ANS*関連の需要が北米と日本で増加 PCIeの研究開発需要が引き続き好調
アジア他・日本	中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞 データセンター市場の顧客の投資は好調
米州	データセンター市場の顧客の投資は好調

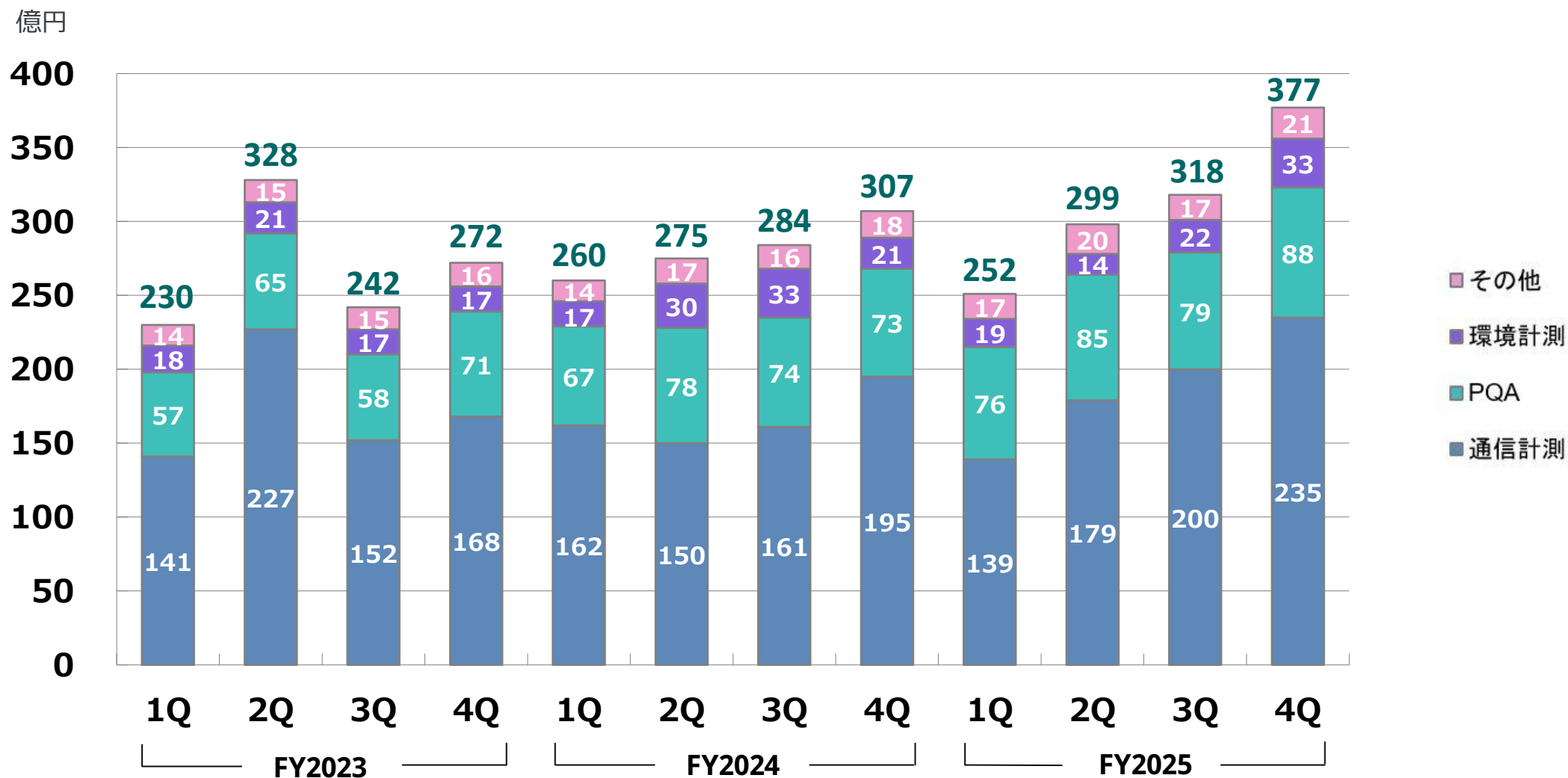
\*ANS(エアロスペース&ナショナルセキュリティ)

➡ PQA：全地域で好調。特に国内のインバウンド関連需要が好調

➡ 環境計測：EV/電池向け試験装置需要は調整局面

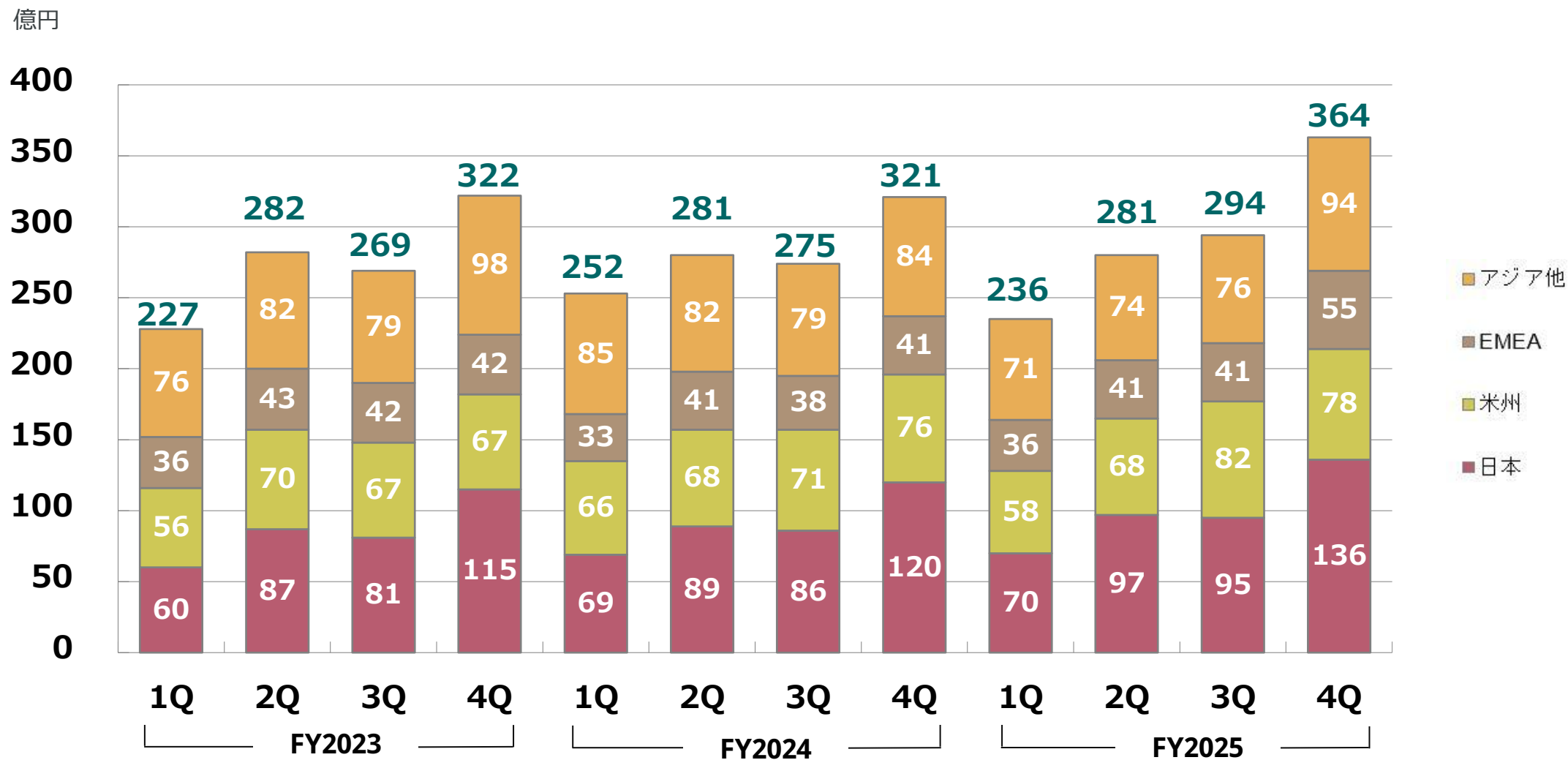
## 2-5. 受注高推移

▶ 4Q(1-3月)受注高：前年同期比 通信計測 20%増、PQA 21%増、環境計測 57%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

## 2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

## 2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 15.2%

### FY2025

- ① 営業CF : 179億円
- ② 投資CF : △147億円
- ③ 財務CF : △64億円

### フリーキャッシュフロー

(① + ②) : 32億円

### 現金同等物期末残高

493億円

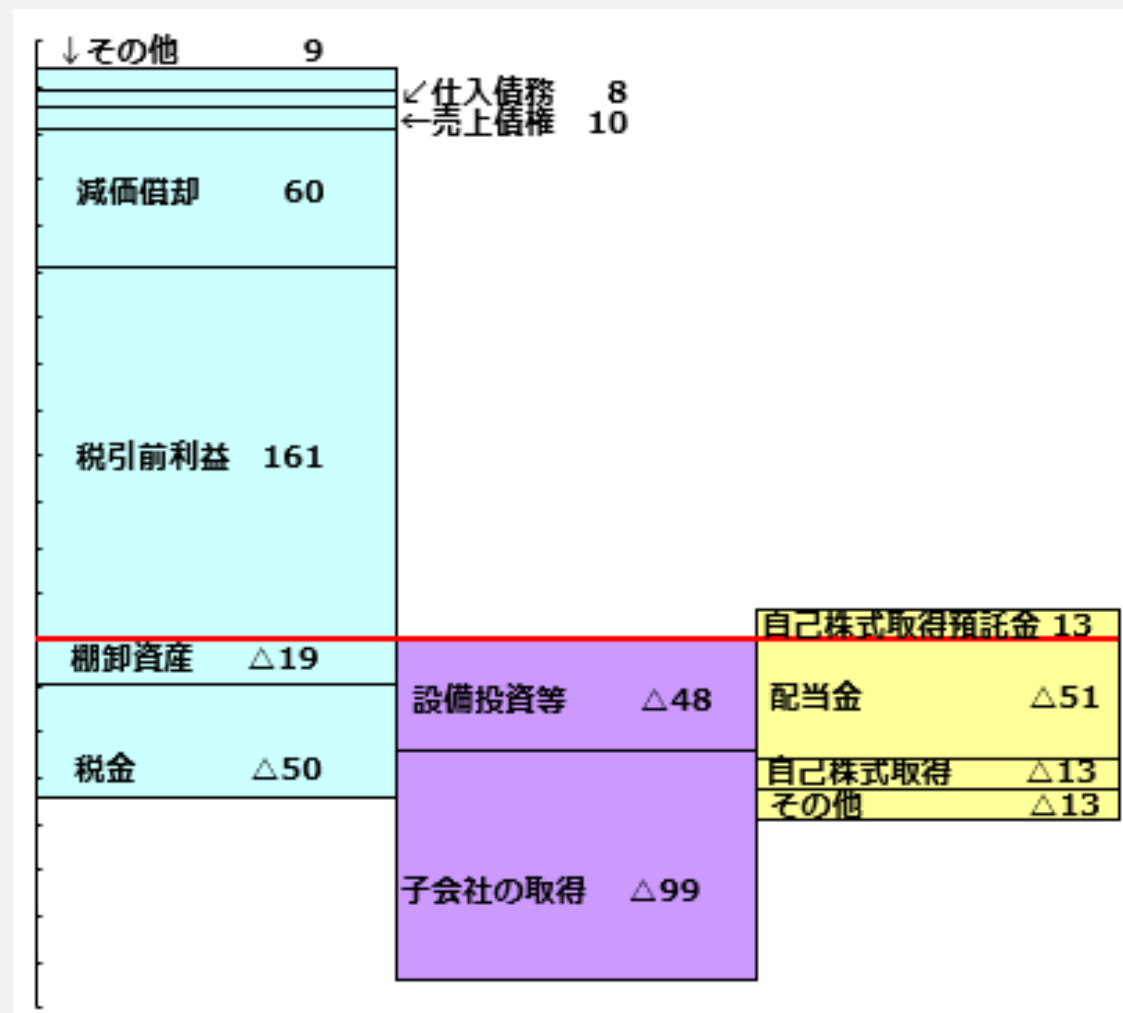
### 有利子負債高

68億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

### 内訳

(単位：億円)



営業CF 179

投資CF △147

財務CF △64

### 3-1. 2027年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 通信計測事業、PQA事業、環境計測事業で増収増益を狙う

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		2026/3期	2027/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,175	1,400	225	19%
営業利益		148	200	52	35%
税引前利益		161	200	39	24%
当期利益		117	150	33	28%
通信計測	売上高	688	850	162	24%
	営業利益	108	165	57	53%
PQA	売上高	310	330	20	6%
	営業利益	33	40	7	21%
環境計測	売上高	108	160	52	48%
	営業利益	9	10	1	18%
その他	売上高	69	60	△ 9	△ 13%
	営業利益	20	15	△ 5	△ 24%
調整額	営業利益	△ 21	△ 30	△ 9	-

（参考） FY25 為替レート : 1米ドル151円、1ユーロ175円  
FY26 想定為替レート : 1米ドル150円、1ユーロ175円

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

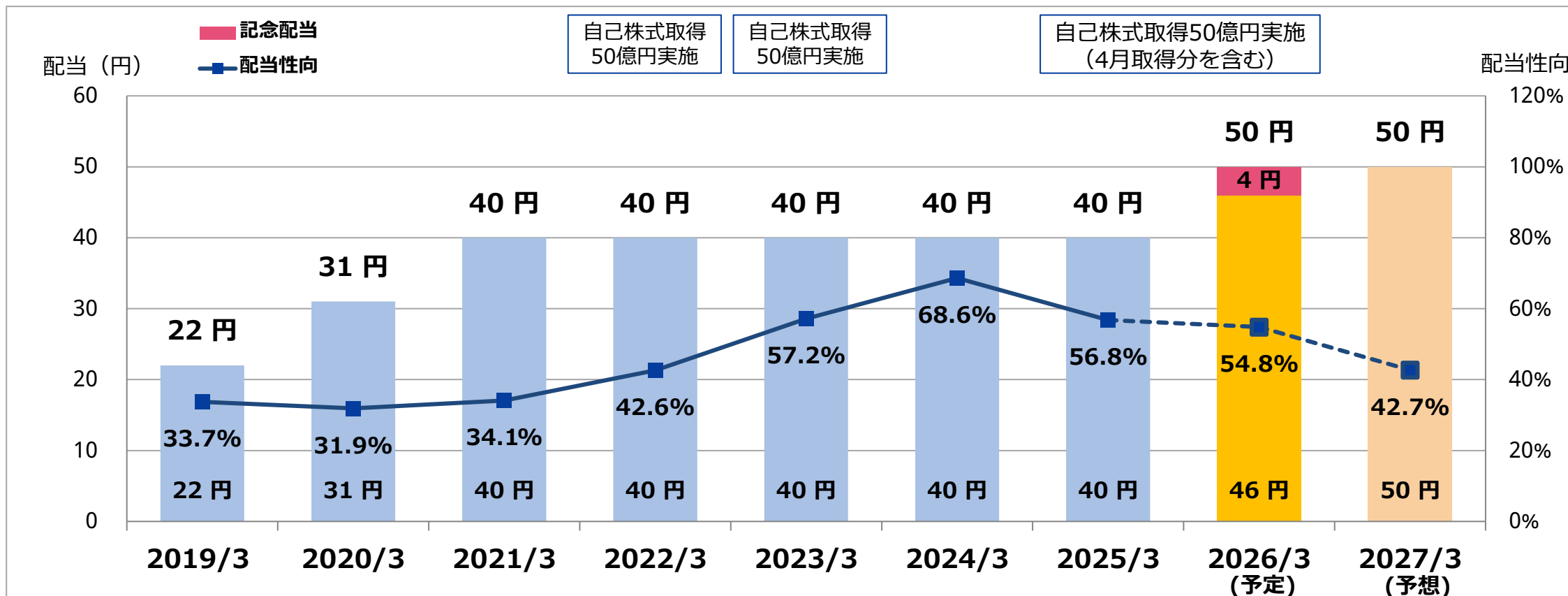
## 3-2. 配当予想について

2026年3月期  
配当予定の修正（増配）

40円 → 50円

中間配当20円

期末配当30円（普通配当26円、記念配当4円）



3年間の 総還元性向	GLP2020 (FY2018~FY2020)	GLP2023 (FY2021~FY2023)
	33.3%	87.5% (自己株式取得100億円含む)

# 4. 当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社  
代表取締役 社長

# 4-1. GLP2026 業績実績と見通し

指標	FY2024実績	FY2025実績
売上高	1,130 億円	1,175 億円
営業利益	121 億円	148 億円
営業利益率	11 %	13 %
当期利益	93 億円	117 億円
ROE	7.4 %	9.1 %

通信計測事業	売上高	701 億円	688 億円
	営業利益	84 億円	108 億円
	営業利益率	12 %	16 %
PQA事業	売上高	282 億円	310 億円
	営業利益	28 億円	33 億円
	営業利益率	10 %	11 %
環境計測事業	売上高	85 億円	108 億円
	営業利益	9 億円	9 億円
	営業利益率	11 %	8 %

FY2026	
当初計画	今回計画※1
1,400 億円	1,400 億円
200 億円	200 億円
14 %	14 %
150 億円	150 億円
12 %	12 %
900 億円	850 億円
150 億円	165 億円
17 %	19 %
300 億円	330 億円
36 億円	40 億円
12 %	12 %
130 億円	160 億円
14 億円	10 億円
11 %	6 %

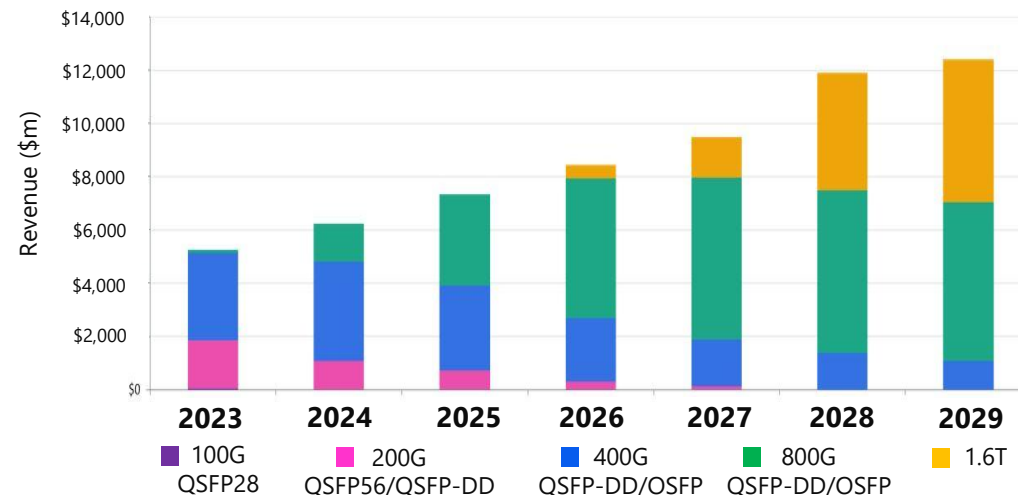
※1：FY2026想定為替レート：1米ドル150円、1ユーロ175円

## 4-2. 光トランシーバー製造市場動向

800GE光トランシーバー需要は2026年も引き続き高い水準で推移する見通し。光トランシーバー増産に伴う計測器需要の拡大を見込む

1.6TE光トランシーバー生産は2026年後半より本格化する見通し。製造ライン立ち上がりに伴う需要を見込む

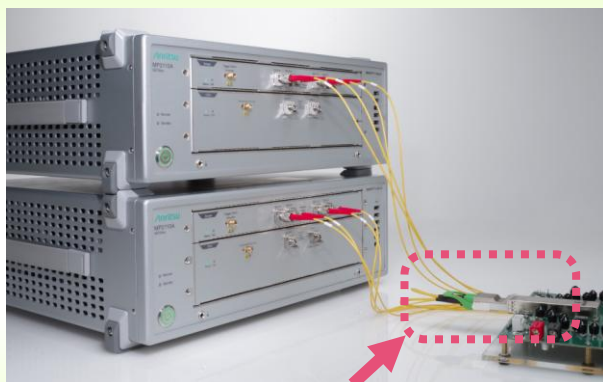
Optical modules by data rate



出典 : Omdia; 2025 Trends to Watch: Datacom Optical Components

### 当社の光トランシーバー評価ソリューション

#### BERTWave MP2110A



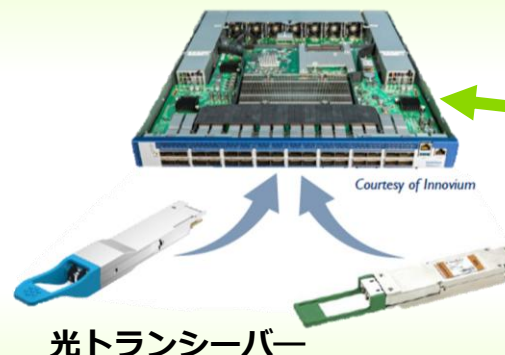
光トランシーバー

光トランシーバー  
製造時の信号評価



400GE/800GE  
/1.6TE信号

#### サーバーユニット



光トランシーバー

#### データセンター

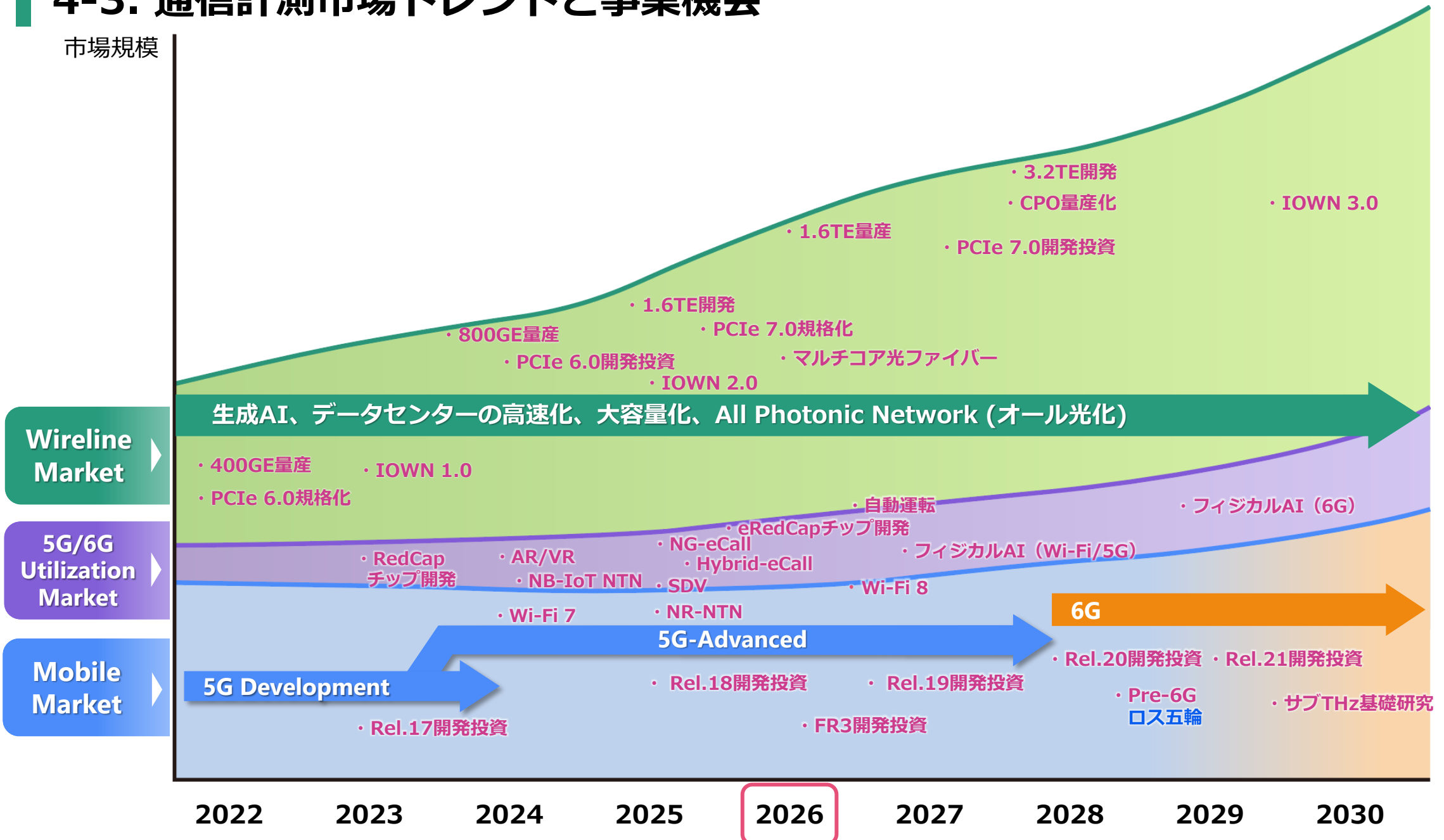


出典 : Yole社の市場調査レポートより

出典 : Explore our photo gallery - Google Data Centersより  
<https://www.google.com/about/datacenters/gallery/>

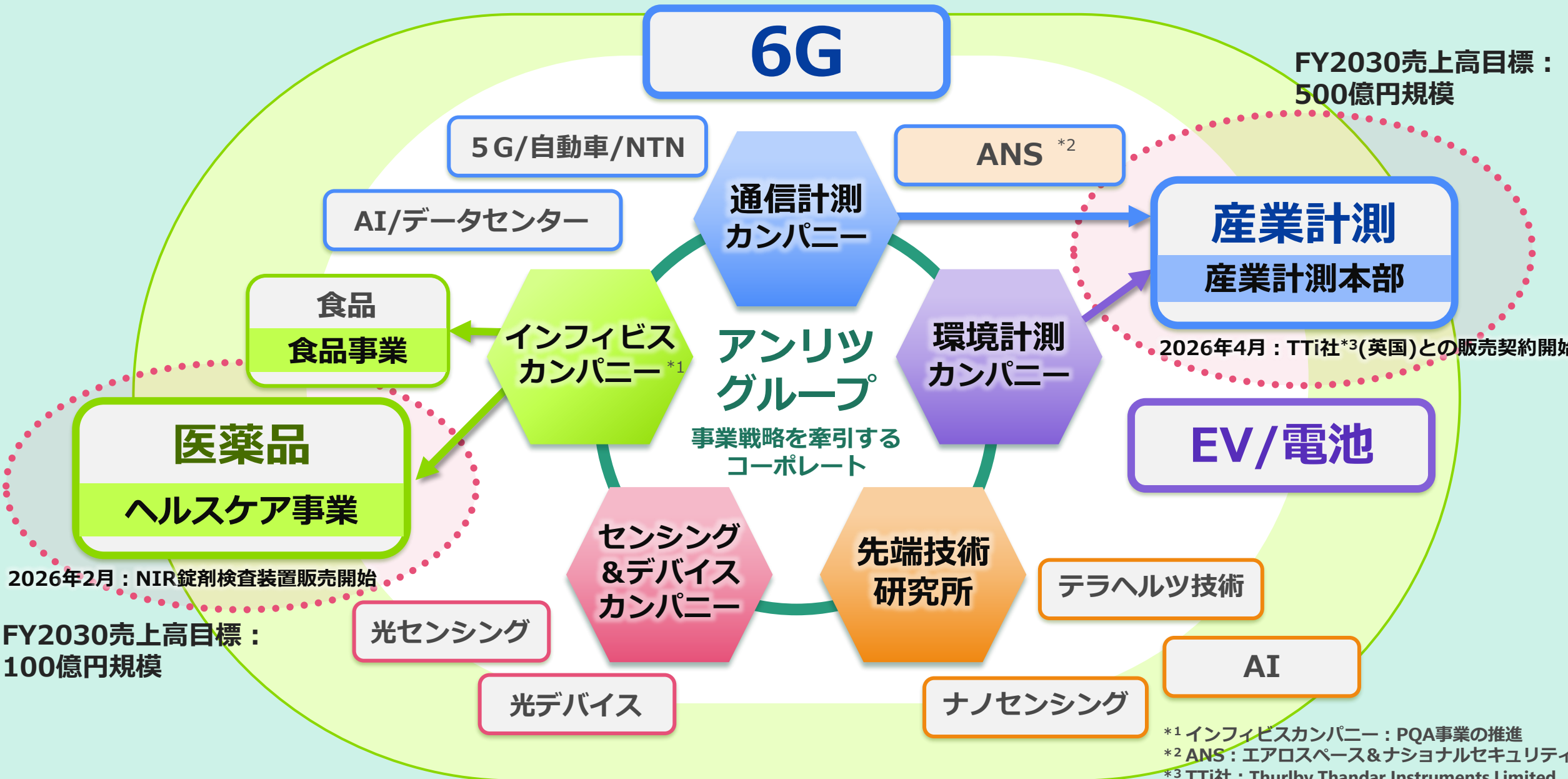
# 4-3. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



# 4-4. FY2026 成長分野のビジネス拡大を加速

FY2030売上高目標：  
500億円規模



2026年2月：NIR錠剤検査装置販売開始

FY2030売上高目標：  
100億円規模

\*1 インフィビスカンパニー：PQA事業の推進  
\*2 ANS：エアロスペース&ナショナルセキュリティ  
\*3 TTi社：Thurlby Thandar Instruments Limited

## MWC2026 概況

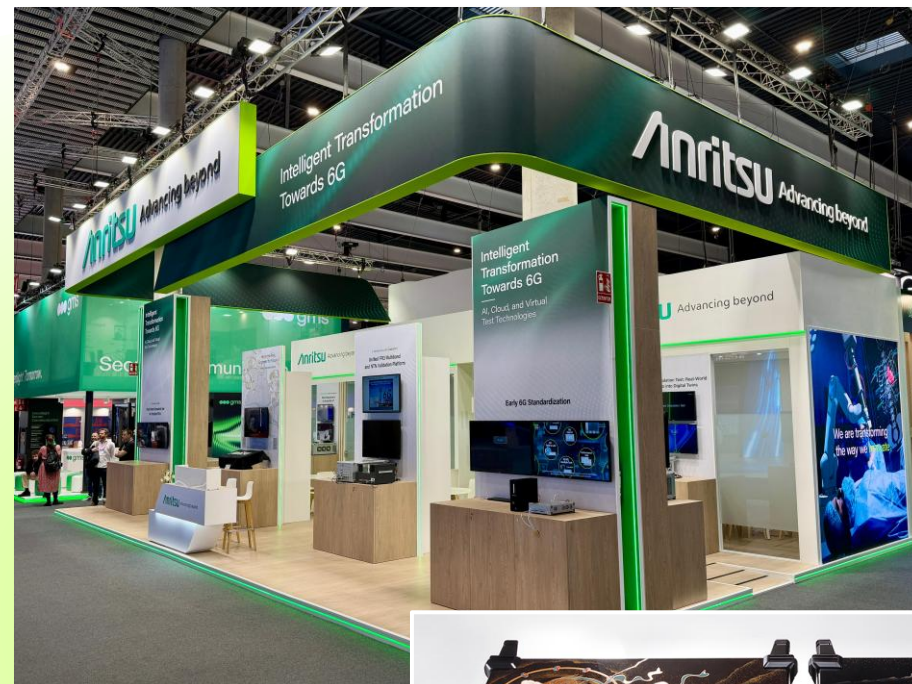
- 今年はThe IQ Era (知能の時代) をテーマにAIと通信の融合したAgentic AI(自立型AI)を中心に各社が展示
- データセンター関連の出展が大幅増、NTTのIOWN展示が注目を集める

## 当社ブース展示内容

- 6G初期標準化を支援する「Virtual Signaling Tester」
- AIによる解析機能等で開発を効率化するテストプラットフォーム
- 自動運転のテスト環境を仮想環境で実現する「仮想化車載テストソリューション」
- RAIJIN PROJECT コンセプトモデル展示 ほか

## 成果

- 当社ブース来訪者数271名
- 競合に先駆け6G向けソリューションを展示し、Qualcomm Technologies, Inc.との共同デモも実施



### RAIJIN PROJECT

産業計測分野におけるグローバルでの企業認知度向上を目的としたブランディングプロジェクト。京都の漆工房との共創により、歴史と信頼性を強みとする日本のクラフトマンシップの価値を発信。

**Anritsu**  
Advancing beyond

